

I 第11回鯨に関する座談会

共催 鯨類研究所
水産海洋研究会

主 題 1968/69年度(第23南)南極洋捕鯨操業について

日 時 昭和44年8月4日 18.00~17.00

会 場 日本水産株式会社社会議室

コンピナー:河村章人(鯨類研究所)

話題および話題提供者

1. 第23次南極洋捕鯨操業概要および結果 荒井国雄(日本水産株式会社)
齊藤真人(大洋漁業株式会社)
飯田陸之助(極洋捕鯨株式会社)
2. 南極洋産ナガスクジラの資源評価について 嶋津靖彦(東海区水産研究所)
3. 南極洋産イワシクジラの餌料について 河村章人(鯨類研究所)
4. 最近における南氷洋産イワシクジラの資源診断*) 土井長之(東海区水産研究所)
5. 第21回国際会議における南氷洋ナガスクジラ資源診断の争点*)
大隅清治(遠洋水産研究所)
6. 総合討論

1 第23次南極洋捕鯨操業概要

荒井国雄
(日本水産株式会社)

A 往航及び操業開始前調査状況

- (1) 出帆 母船 11月13日 神戸
冷凍船、野島、宮島 11月19日 厳嶋 11月16日 神戸
先発捕鯨船 11月8日 16c 18c 呉出帆
後発 " 10隻 11月14日 "

*) 講演内容については以下に発表済みであるため省略

土井長之・大隅清治(1969)

南氷洋ナガスクジラの資源評価の争点 — 国際捕鯨委員会第21回年次会議科学分科会の
一断面 —、鯨研通信、216号、1-11.

(2) 調査状況

昨年度実績漁場(80°Eを中心とする)の調査に重点を置き略々65°E~120°Eの北側漁場Sei 主体に調査する方針で態勢を敷く。各捕船は夫々分散調査、その結果、22南に比較して発見は少く

22南 B2, F152, Sei1356, Sp684, H20, R19
23南 3, 44, 866, 372, 2

又、鯨の移動も激しく操業開始地点として、70°E及び86°E附近の2カ処に焦点を絞り天候発見状況等各種条件を検討し86°E附近で操業を開始する事に決定。(尙この附近に向け3日新丸も南下中)

全般に水温の傾向は、昨年度より南北の出入り激しく浮餌も多かつたが、68°~69°E 41°S~46°S附近にはNNW~SSEにかけて顕著な潮境が形成されており、鯨の移動も激しくかつた。

B 鬚 漁

開始 12月12日 ~ 終了 3月2日 (操業日数 80日)

捕獲 F706 Sei522 B.W.U.440 Mi41

3日新船団は操業開始より終了迄 略々、2回南丸と同一海域にて操業漁場を3つに大別し夫々概略下記の通り

- A 漁場、80°S 43°E、附近からケルゲレン島NEにかけての鯨を主体とする漁場
- B " 52°S 以南の70°E~100°Eにかけての長須主体の漁場
- C " ケルゲレン島北側からクローゼットNW側にかけての長須、鯨混りの漁場

天候は全般に東西型であり北側では偏西風が連吹。最近の傾向として南氷洋全体的に(18南以後)暴風圏即ち、偏西風帯が少々北偏の傾向を示している。

1) A 漁 場

暴風圏が北偏しその真只中に位置していたため偏西風卓越した日が多く天候に災されたためもあり、発見少く又捕獲ベースも低調であつた。水温は、75°E~76°E附近を中心として冷水が北上の傾向であり、その東、西斜面に発見が多く69~70°Eにかけての顕著なる潮境に依然根強く残つていた。船団は86°Eより北側を西進し70°E附近のこの潮境附近を南下したのが予想した捕獲も挙らず西進して来た南側を反転、48°S 81°E附近中心鯨発見ポツポツ続いたが偏西風強く2船団で操業した事もあり捕獲挙らず、捕獲ベース回復の意味もあり12月27日ケルゲレン島NEの47°S 71°E附近の長須漁場に向け移動。

2) B 漁 場

偏西風帯の南側の広い低圧部の中にあたり風弱く連日好天に恵まれた。1月4日58°S 80°E附近に到着。昨年度に比較し発見少ない傾向であり、ソ連船団も2船団この海域で操業した。

主漁場は、 $5^{\circ}3'-30'S$ $5^{\circ}7'-30'E$ $5^{\circ}6'-30'S$
 $8^{\circ}1'-00'E$ $9^{\circ}2'-30'E$ $7^{\circ}5'-30'E$

8 $^{\circ}1'E$ 漁場では、500~1000mのバンクの周辺に1 $^{\circ}C$ 台の冷水塊があり漁場としては根強い海域であつたが、2船団で操業したため発見も少くなり、5 $^{\circ}7'S$ 迄南下後9 $^{\circ}3'E$ 附近向け東進したが、11 $^{\circ}0'E$ 迄操業するも発見は思わしくなかつた。

1月18日 $5^{\circ}4'S$
 $8^{\circ}4'E$ 附近向けNW方向に移動開始。

$5^{\circ}4'S$
 $8^{\circ}4'E$ 附近 Sei の発見がありこの附近にも Sei が入つて来る兆あるも低気圧の進路が5 $^{\circ}2'S$ ~5 $^{\circ}3'S$ 附近となる予想であり天候も下り坂の傾向となり、 $5^{\circ}6'S$
 $7^{\circ}5'E$ 附近にて170 $^{\circ}C$ が約100頭発見しタンカー 函南丸との横付もあり、1月21日この発見に向け移動した。3日新丸は、ハード島北側に向け移動中。

この $5^{\circ}6'-30'S$
 $7^{\circ}5'-30'E$ を中心とする漁場は鯨の動き激しく、24日函南丸との横付終り $5^{\circ}3'-30'S$
 $8^{\circ}0'-00'E$ に向け反転したが、この漁場も反復操業の結果、次第に荒れ又、天候も安定せず、長須の捕獲に依り、捕獲ベースも計画を上廻つて来たので鯨の捕獲に全力を尽すべく、ケルゲルン漁場から、クローゼット漁場を操業する方針とし、1月28日NW方向に移動を開始した。

3) C 漁 場

北方漁場は依然として偏西型の天候が続いておりケルゲルン島NE附近の漁場でも風浪強く捕獲挙げず、暴風圏の北側に出るべく、4 $^{\circ}3'S$ 附近迄北上したが風劣えず、漸次クローゼット漁場向け西進した。2月5、6日にかけては南側を発達した低が通過し風力12に達する大時化に見舞われたが事故もなく、以後稍々暴風圏南下し天候も小康状態となつた。

クローゼット島北側漁場は(22南より北)、鯨の発見も予想以下であり、 $4^{\circ}1'-00'S$
 $4^{\circ}8'-30'E$ 附近のF, Sei 混りの漁場へ移動した。この漁場は小範囲ではあつたが Sei の発見割合に多く、天候も中緯度高気圧の圏内で安定し Sei 主体の操業を行なつた。餌(サンマ型の魚)も非常に多く、後続群回遊を期待したがBの発見多くなり、又Fも小型であつた為、クローゼット北側に向け反転した。以後漸次45線附近を移動操業しつつ東進、Sei の発見少く、又天候も時化気味であつたが大型のFを狙い3月以降の天候悪化も考慮し、早期切揚げの方が得策と考え3月1日捕獲目標440 B. W. U. を達成し3月2日0700操業終了した。

標識調査船 16日 函南丸による標識結果

命中31 命中但し鉅露出2 おそらく命中9 不命中58

発見および捕獲頭数は次の通りである。

	発 見 頭 数							捕 獲 頭 数			
	F	Sei	B	H	Sp	Mi	F	Sei	B.W.U.	Mi	
A 漁 場	218	584	17	R ₁ 5	62	2	56	264	72		
B 漁 場	975	48	8	8	32	380	416	48	216.0	41	
C 漁 場	899	374	138	3	26		234	210	152.0		
計	2087	1066	163	16	120	382	706	522	440.0	41	

水産海洋研究会報第16号

平均体長 F68(20.8) Sei 48(14.5) Mi 27(8.2)

又生産品は次の通りである。

	生 産		ミンク	
	B. W. U.	総 計	一頭当	総 計
鯨 油	20.34	8940. KT	0.20	8.2 KT
冷 凍 品	53.12	23344.3 "	1.52	62.2 "
塩 蔵 品	1.71	750.3 "		
ヒ ゲ	0.07	30.0 "		
計	75.23	33064.6 "		

操業時の海況の内操業不適の比率は次の如くなる。

	風力7以上	視界3'以下	
12月	35.7%	4.8	= 40.5
1月	12.9"		= 1.29
2月	32.8"	0.8	= 33.6

質 疑 応 答

(宇田) どの付近にサンマがいたか。

(荒井) 43°~48°S付近の40~50哩範囲ではなかつたかと思う。

(土井) サンマはチリー沖にもいた。

(飯田) フォークランドNE、ニュージーランド東西両水域の50°S付近にまでサンマがみられたが、亜南極水域に帯状に分布しているのではないか。

2 1968/69年度南極洋捕鯨操業結果について

斎 藤 真 人

(大洋漁業株式会社)

母船第8日新丸は昭和43年11月21日正午横須賀港出帆スダ海峡經由南氷洋漁場に向けた。冷凍船2隻と捕鯨船6隻は同22日出帆、之より先、南アフリカ經由にて4隻フリーマントル經由にて4隻夫々東向及西向に先航調査させたが母船の出帆が予定より2週間遅れたので当初の計画を変更して東経85度の漁場に向け12月12日漸やく漁場着操業開始することが出来た。

今次南鯨は大洋久し振りの一船団、捕獲枠B. W. U. 613頭で出漁した。操業漁場は昨年と略同